

O-6 娘としての役割を再獲得することで作業への拡がりに繋がった事例

○和田 晴菜¹⁾、田中 圭介²⁾、福代 淳³⁾

1) ユニット型特別養護老人ホーム ふしの白寿苑 2) デイサービスつむぎ 3) さとに田園クリニック

Keywords: 役割チェックリスト, 人間作業モデル, 特別養護老人ホーム

【はじめに】

今回も膜下出血発症により特別養護老人ホーム（以下施設）入居に伴い役割を喪失し生活全般が消極的になっていた A 氏を担当した。A 氏に対して人間作業モデル（以下 MOHO）を用いて役割に着目し多職種で関わった。結果、役割を再獲得し作業の拡がりに繋がったため以下に報告する。なお発表にあたり同意を得ている。

【事例紹介】

60 代女性で独身、要介護度 4。施設入居中。認知機能低下無し。入居前は馴染みのある職場で 10 年間勤務し、休日は家族や友人と過ごしていた。性格は控えめで、意思表示は頷きのみ。くも膜下出血治療後、在宅での介護困難のため当施設へ入居した。居室近くには認知症の母親も入居しており会うのは週に 2 回程。

【作業療法評価】

A 氏は、「母と毎日会いたい」と語り、車椅子自走で自由に動くことも希望した。さらに母親の認知症の進行も心配し支えたいという思いがあった。COPM では遂行度と満足度は 1 点。OSA では問題があり非常に重要なこととして身体状態や勤労者と家族としての役割、環境全般を選択。役割チェックリストでは、現在担っている役割はなく、未来担いたい役割として過去担っていた役割に友人を追加。MOHOST は 36 点。ADL は整容以外全介助でほぼ寝たきり。介護員は関わり方に悩んでいた。栄養面は 3 食経管栄養。最も本人の希望が強かった母親に会うための車椅子自走の評価を実動作により実施した。車椅子操作開始当初はゆっくり 2 m 程進んだ後に止まり操作に慣れず疲労感を訴えた。

【焦点化と目標設定】

評価の結果から、環境変化や作業遂行機会の減少から役割を喪失し個人的原因帰属が低下していた。さらに作業遂行機会を失うことでほぼ寝たきりになるという悪循環に陥っていると推測した。また介護員は A 氏への関わり方に不安を抱えていた。これらのことから A 氏にとって重要度が高い「娘としての役割」に焦点を当て、多職種で介入することとした。目標は「毎朝起きて母親と過ごすために車椅子を自走する」とした。

【介入経過】

A 氏は母親に会うために毎朝起きて 10m 先の居室まで自走し母親と過ごすこと、母親の好物を移動販売車から購入し一緒に食べることを習慣ができた。さらに、A 氏の思いを OTR が聞き多職種と共有することで、介護員も A 氏の思いを理解しながら関わった。

【結果】

COPM は遂行度と満足度ともに 1 点から 3 点、OSA は家族としての役割が問題ありからやや問題あり、体を休ませる場所が問題ありから良いとなった。役割チェックリストで今後について「母親の好物購入や一緒に過ごす」ことを希望した。MOHOST は 36 点から 60 点となり、興味、日課、適応性、役割が改善した。役割は母親を支える娘として遂行し、習慣は母親に会いに行くための車椅子自走の継続、母親の好物購入のため移動販売車を利用し作業が拡大した。ADL は車椅子自走が自立、食事面では母親と移動販売車からの購入品を食べることや、介護員がティタイムの機会の提供を続けたことで、昼食が経口摂食となった。また、居室外で過ごす時間増加により入居者や職員と関わることができ、介護員は OTR 介入日以外も離床や自走の促しを行うようになった。

【考察】

今回「娘として母を支えたい」という優先度の高い役割に焦点を当て、多職種で連携し役割作業を担い続けることで個人的原因帰属が向上し、作業参加機会の増加に繋がった。また A 氏は母親との今後について、唯一共に過ごせる家族として一緒に過ごしたいという希望がある。さらに家族や友人との関わり、趣味人としての役割を獲得していくためにも現在の「母親と共に過ごす」習慣に加え姉弟や友人、施設関係者を含めたコミュニティへの参画も目指していく必要があると考える。今回の事例から、多職種と連携することで、利用者が重要と感じる役割の再獲得や作業の拡がりに繋がった。そのため日頃から利用者の思いを聞くこと、それを多職種と共有し支援を行う重要性を再認識した。